

## 企画ワークショップ②

＜インタビューする/される＞関係を越えて力が交換されるとき  
～「未来のための思い出：ココロ重ねるプロジェクト」の経験から

企画者：村本邦子（立命館大学）

話題提供者：村本邦子（立命館大学）・清武愛流（清武システムズ）・八木宏子（京都市  
非常勤職員）

コメンテーター：中村正（立命館大学）

内容：2015年6月27日（土）～7月5日（日）、京都の駅構内で「未来のための思い出：ココロ重ねるプロジェクト」として、団士郎の「木陰の物語」を展示し、3つの質問項目①漫画展の感想 ②思いもよらない出来事（困難）を乗り越えてきたコツ ③思いもよらない出来事（困難）の最中にある人へのアドバイスからなる街頭インタビューを実施した。これは人々の困難を乗り越える力を特定する研究であると同時に、それを強化する試みでもあった。結果として、立命館大学で対人援助を学ぶ大学院生・修了生21人がインタビュアーとして参加し、250名の市民の声を集めた。集まった声を分析するなかから、インタビューした者とされた者との相互作用が興味深いテーマとして浮上してきた。

今回のワークショップでは、インタビューに関わった話題提供者らが、インタビューによって語られたプロジェクトやインタビュアーに対するコメントを紹介するとともに、インタビュアーがインタビューの場で、あるいはインタビュー後に体験したことを紹介し、コメンテーターからのコメントを経て、インタビューにおいて起こる「する/される」関係を越えた相互作用について、フロアの参加者も交えて検討し考察する研究の場としたい。